台大日本語文研究第 21 期
2011 年 6 月，頁 69-98
2011-03-31 收稿，2011-07-05 通過刊登

從「曜日」看日語的時間意識
—台灣日語教育研究觀點—

賴錦雀*

摘要

在 21 世紀初的今日，大家理所當然似地每天使用著「星期」「禮拜」「曜日」等語詞。不過，究竟台灣何時開始使用與「星期」相關的用語？而在日本又是何時開始使用與「曜日」相關的用語呢？此外，由「星期」「禮拜」的用法所呈現出來之台灣華語時間意識和由「曜日」的用法所呈現出來之日語時間意識是否有所差異？本稿從台灣日語教育研究觀點出發，首先考察有關台灣使用「星期」與日本使用「曜日」相關用語的起源，並透過實例分析「星期」「曜日」相關表現所呈現出來的時間意識，再從對比的角度探索華日語言文化中有關時間意識的異同。

關鍵詞：曜日、時間意識、日語、台灣華語、語言文化

* 東吳大學日本語文學系教授

Japanese time perception seen from “youbi”: a viewpoint of Japanese language education in Taiwan

Lai, Jiin-chiueh*

Abstract

The word "shieng chi" in Taiwan, and the word "youbi" in Japan are used every day at the present age of the 21st century. In Taiwan and Japan, when did it come to have the time perception of the week? When did Taiwanese begin to use "shieng chi"? When did the Japanese begin to use " youbi "? Do Taiwanese and Japanese have any differences in the time perception of "day of the week"?

The aim of this paper is to clarify the above-mentioned things from the viewpoint of Japanese language education in Taiwan. First of all, the start of "shieng chi " in Taiwan and the start of "youbi " in Japan will be considered. After that, the time perception seen from " youbi " will be analyzed through the examples.

Keywords: "youbi ", time perception, Japanese, Taiwan-Chinese, Language culture

* Professor of the Department of Japanese Language and Culture, Soochow University, Taiwan

「曜日」に見られる日本語の時間意識
―台湾日本語教育的視点から―

賴錦雀*

要旨

21 世紀の現代、台湾では「星期」「禮拜」、日本では「曜日」という用語を当たり前のように毎日使っているが、一体、台湾と日本ではいつごろから週間という時間意識、そして「星期」「禮拜」「曜日」という言葉を使い始めるようになったのか、また「星期」「禮拜」から見た中国語の時間意識と「曜日」から見た日本語の時間意識に何か異同があるかどうかを、台湾日本語教育的視点から明らかにするのが本研究の目的である。本稿では、まず台湾における「星期」「禮拜」と日本における「曜日」の始まりについて考察した後、実例考察を通してそれぞれの「曜日」に関する時間意識の捉え方を分析し、対照比較の観点から日中両語における時間意識の相違を探求する。

キーワード：曜日、時間意識、日本語、台湾中国語、言語文化

* 東呉大学日本語文学系教授

「曜日」に見られる日本語の時間意識
―台湾日本語教育的視点から―

賴錦雀

一、はじめに

人間社会では人々は言葉で意思疎通をして生活を営むが、そのコミュニケーションが成り立つには発信者と受信者の間に共有の知識や言語感覚がなければならない。言い換えれば、言語は社会行為と密接な関係にあり、人間社会における交流はコミュニケーション能力と文化的能力が必要条件になるわけである。例えば、昔の日本社会では鐘の音によって時を知らせたが、その時というのは季節によって変わることもあったという。それに対して、現代における時間概念は世界の共通事項として 60 進法による秒・分・時、そして日・週・月・年という時間単位を設定している。しかし、世界共通の時間概念の中で言語社会によってそれぞれの時間意識が違うことも考えられよう。

21 世紀の現代、台湾では「星期」「禮拜」、日本では「曜日」という用語を当たり前のように毎日使っているが、一体、台湾と日本ではいつごろから週間という時間意識を持ち始め、「星期」「禮拜」「曜日」という言葉を使い始めるようになったのか、そして「星期」「禮拜」から見た中国語の時間意識と「曜日」から見た日本語の時間意識に何か異同があるかどうかを、異文化交流能力育成を最終的な目標とする台湾日本語教育の視点から明らかにするのが本研究の目的である。本稿では、まず台湾における「星期」「禮拜」と日本における「曜日」の始まりについて考察した後、実例考察を通してそれぞれの「曜日」に関する時間意識の捉え方を分析し、対照比較の観点から日中両語における時間意識の相違を探求する。

二、起源から見た「曜日」

『隋書』に「七曜」が常用されていることを見てわかるように、古代中国では地球の上空を天の星が動いていたと考えられていた。その頃、太陽、月、および古くから知られていた5惑星（水星、金星、火星、木星、土星）を、古代の中国人が地球から遠いと考えていた順番に並べると、土星、木星、火星、太陽、金星、水星、月となる。これらの星が1時間交代で順番に支配すると考えられ、1日目の1時は土星、2時は木星、3時は火星……と続けていくと、それぞれの日の最初の1時は、1日目は土星、2日目は太陽（日）、3日目は月、4日目は火星、5日目は水星、6日目は木星、7日目は金星となり、ここから各曜日の名称が生まれた。これは中国では七曜星と呼ばれ、現在の七曜の暦の起源になったが、日本にも伝えられた[1]。ここでは現行の、七日間を一週間とする「週制度」の起源、そして、曜日の呼び方について考える。

（一）日本における「曜日」の始まり

日本語では、1886年に成立した『改定増補和英語林集成』に日曜日から土曜日までの七日を一期にした暦の単位としての「Shū シュウ　週」が載っている[2]。日本語の「週制度」はいつごろから成立したのか、見てみたい。明治5年（1872）11月9日、太陰暦を廃し、太陽暦を採用することの詔書が発せられ、太政官布告第337号（図1参照）により公布された。それによって明治6年に日本に太陽暦が導入され、1年を365日とし、それを12月に分け、4年毎に閏年をおくこと、1日を24時間とすること、旧暦の明治5年12月3日を新暦の明治6年1月1日とすることが定められた[3]。そして、明治9年（1876）3月12日、太政官達第27号で「従前一・六日休暇ノ処四月ヨリ日曜ヲ以テ休暇ト定メラレ候条此ノ旨相達シ候事但シ土曜日ハ正午十二時ヨリ休暇タルベキコト」と発令され、4月1日の土

1　『隋書』及び故九州産業大学教授中野康明「中野康明の雑学ページ」による。
2　『日本国語大辞典』第二版「週」項による。
3　日本国立公文書館「ぶん蔵」による。

曜日から発効であった。更に、「一六日ノ休暇ヲ日曜日ニ更メ土曜日ハ午時放衙ス」と、土曜日は半ドンになった[4]。このように、日本での週制度が始まり、公的機関の活動が新暦によって行われるようになった。

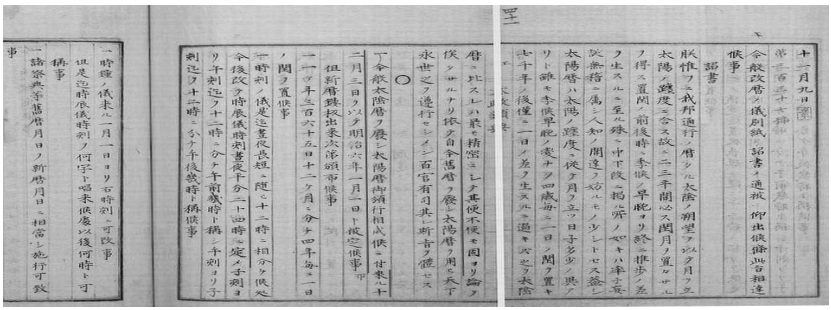


図 1　太政官布告第 337 号

太陰暦を太陽暦に改めた理由についていろいろな説がある。例えば、図 3 で見るように、早稲田大学創立者大隈重信が当時の式典、講演会、座談会、インタビューなどで話したことばをそのまま収める『大隈伯昔日譚』（1895 年刊）には財政難を解決するために改暦するようなことが書かれている[5]。しかし、日本は明治維新後、脱亜入欧のため西洋の制度、技術、文化などを多量に導入したし、西洋から多くの人材を採用したので週末に休む習慣も尊重しなければならなかっただろう。なお、石川啄木が 1909 年につけたローマ字日記にも英文字で「WEDNESDAY」と書いている（図 4 参照）。これは石川啄木にとって「曜日」使用は日常生活の一部になっているからだと言えよう。上述したことから見られ、改暦の背後にある西洋の影響が否めないと思う。

4　日本国立公文書館「ぶん蔵」資料「太政官布告第 220 号」参照。
5　日本国立公文書館「ぶん蔵」による。



図 2　太政官布告第 220 号

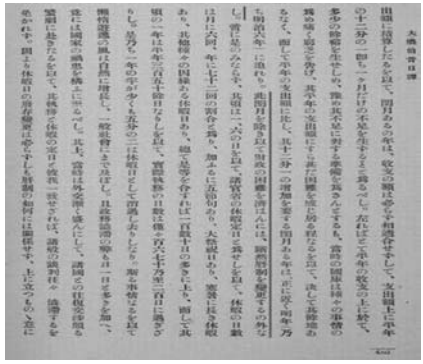


図 3 『大隈伯昔日譚』

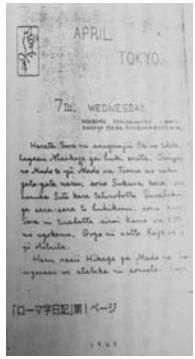


図 4　石川啄木のローマ字日記

（二）中国における「星期」の始まり

中国語では「週」は「めぐる」の意で、もともと七日間を一期とした暦の単位ではなかった。中国語における「週制度」について考える際、「七曜」「星期」「禮拜」のことを考察する必要がある。まず「七曜」であるが、629 年に完成された『隋書』巻二十二には「夫天有七曜地有五行」のように「七曜」の用語が用いられている。それは日、月と金星、木星、水星、火星、土星のことを指していう言葉であり、現代日本語のように一週間の曜日のことを指すのではない。そして、「星期」はもともと『幼學瓊林』巻二の「成婚日曰請星期」のように「婚礼の日取り」の意を表すか、王勃「七夕歌」の「佇靈匹於星期眷神姿於月夕」[6]のように「七夕」のことをいう。七日を一週間とする言い方は中国語では「星期」のほかに、「禮拜」ともいう。4 世紀の末から 6 世紀の中頃までの北魏王朝の歴史を記録した『魏書』（555 年）巻六十七には「崇信佛法禮拜讀誦」のように「禮拜」の言葉が見られるが、それは神仏を拝む意であり、「週」とか「日曜日」の意を表すのではない。また、『明史』にも「其國東南大海，西北重山，天時常若八九月。五穀、蔬果、諸畜咸備。人體頎碩。王及臣民悉奉回回教，婚喪亦遵其制。多建禮拜寺。遇禮拜日，市絕貿

[6] 『大漢和辞典』による。

易，男女長幼皆沐浴更新衣，以薔薇露或沉香油拭面，焚沈、檀、俺八兒諸香土鑪，人立其上以薰衣，然後往拜。」（下線は引用者。以下同）のように「禮拜日」という言葉が見られるが、それは「神仏を拝む日」の意である。

中国語で七日を一週間とする時間意識は西洋の影響を受けた結果だと思われる。1867 年に刊行された葛元煦「滬遊雜記」には次のような記載がある。

（1）七日一禮拜、為西人休息之期即中曆虛、房、星、昴四宿値日。是日也、工歇藝事、商停貿易、西人駕輕車、騎駿馬、或攜眷出遊、或赴堂禮拜。 華人之居停西商者、於先一日禮拜六夜、徵歌命酒、問柳尋花、戲館倡寮愈覺賓朋滿座雲。（『上海灘與上海人』「滬遊雜記」）

西洋の商人の所で働いている中国人は、西洋人が休む日曜日の前日の土曜日の夜にお酒を飲んだり遊郭へ行って遊んだりする、という記録である。そして、1904 年に上海の南洋公學に入った蔣夢麟は「禮拜」について次のように述べている。

（2）不管學生願意不願意，他們必須守規矩，而且要絕對服從。我們根本不知道什麼叫禮拜天。」(蔣夢麟『西潮』第一部　滿清末年 第三章 童年教育)

（3）我自己除了在南洋公學接受課本知識之外，也参加了各式各樣的活動，但是學習的性質居多，談不到積極工作。到禮拜六和禮拜天時，常常到福州路的奇芳茶館去坐坐。（蔣夢麟『西潮』第一部　滿清末年 第八章 西化運動）

このように、上海では曜日によって生活を送ることが伺われた。上の例は租界である上海（滬）での出来事なので、西洋人の習慣による影響が明らかである。

ちなみに、「星期」という語は 1920 年代に編纂された『清史稿』に「中學每星期以六點鐘讀經，三點鐘挑背講解。」[7]のように用例が観察されるが、孫文は中華民国を創立した後、1912 年 1 月 2 日に、

[7] 漢籍電子文献資料庫による。

旧暦（太陰暦）を新暦（太陽暦）に改める「臨時大總統改暦改元通電」を発表した。またそれを執行するために「內務部編印暦書令」を告示し、新暦と旧暦の共存を認め、暦においては新暦には「星期」（曜日）、旧暦には「節氣」を記す、と発表した。

（三）台湾における「曜日」の始まり

世界各国では、十六世紀ごろから太陽暦、つまり新暦を使ってきたが、台湾では長い間、新暦と旧暦が共存している。例えば、一月には新年を迎えるが、その後、旧暦の正月、所謂旧正月には春節を迎える。公の行事やいろいろな記念日は新暦によって行われるが、春節や端午の節句､十五夜などの民間行事は旧暦によって行われる。カレンダーでは曜日の順番で日にちを表示するが、民間暦では日にち、曜日の他に節気も記される。そして、清の時代、すでに次のような「禮拜」「星期」の用例があったが、その「禮拜」も「星期」も「神仏を拝む日」の意である。

（4）復查洋人七日一禮拜，禮拜之日，即閑暇無事之日，看守者乘此出游，亦所難免（劉璈 1881 年『巡臺退思録』「詳覆遵飭督同府縣詳加酌核保護建造鵝鑾鼻燈樓章程由」）

（5）日以巳、午、未、申四時，專心西學，早晚則由漢教習督課國文。遇西國星期，課試論策。每季委員會同洋教習考校一次，別其差等，分行獎戒。（劉銘傳 1888「劉壯肅公奏議　臺設西學堂招選生徒延聘西師立案摺」）

台湾では日本殖民地政府が 1895 年に「午砲」及び地方標準時間を導入し、生徒や従業員が厳しく時間を守ることを要求されることによって、台湾人は現代的な「時」、「分」、「秒」という時間意識を持つようになった[8]が、「週制度」についてはどのように教育されたのか、当時の日本語教科書から考察してみよう。台灣總督府編纂『日治時期台灣公學校與國民學校國語讀本』（2003 年南天書局景印版による）、『蕃人讀本』（2001 年久留美大学覆刻版による）において、次のような用例が観察される。

[8] 呉（2004）による。

(6) 病氣わ日増しによろしくなりまして、醫者が「今一二週間もすぎたらなら、薬おやめてもよい」と、いっております。(台灣總督府編纂明治 45 年『台灣教科用書 國民讀本十一』「第十八課養生おすすめる文」)

(7) 十月一日　水よお。はれ。(台湾総督府大正 5 年『蕃人讀本　巻四』「だい十四　じろお　の　にっき」)

(8) ウラ ノ 山 ニハ、オンライ ノ 畑 ガ アリマス。赤イ 大キナ ミ ガ、モウ ヨク ジュクシテ ヰマス。ツギ ノ 日曜 ニハ ヲバサンニ モッテ イッテ アゲマセウ。(台湾総督府大正 12 年『公學校用國民讀本 巻三』「十三リュウガントオンライ」)

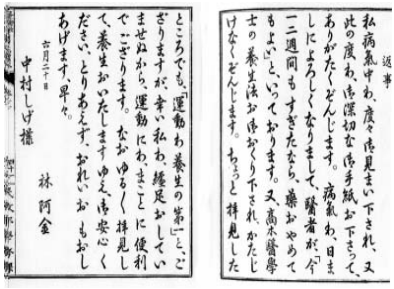


図 5 『台灣教科用書國民讀本十一』

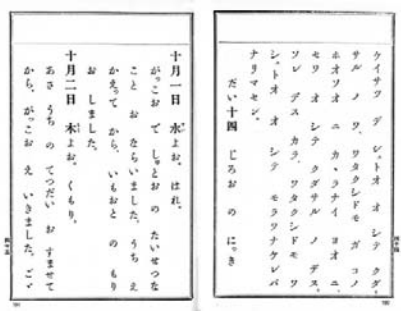


図 6 『蕃人讀本巻四』

以上の用例を見た限りでは、台湾人は日本統治時代に「週制度」のことを教育され、「曜日」という言葉を身に付けたことが考えられる。しかし、台湾語では「～曜日」という呼び名ではなく、「禮拜～」「拜～」という。「月曜日～土曜日」のことを「禮拜一～禮拜六」「拜一～拜六」というが、日曜日のことを「禮拜」か「禮拜日」という。こういう曜日の呼び名は日本の影響というよりも 17 世紀の初めにすでに台湾に伝えられてきた西洋の教会の影響が強いのではないか思われる。

(四) しめくくり

日本政府は 19 世紀の後半に週制度を導入したが、中国政府は 20

世紀の初頭に週制度を導入した。一方、台湾は日本統治の関係で、中国より早く新暦が使われ、週間制が導入された。言い換えれば、七日を一週間とする時間認知において、台湾は中国より先に近代化したわけである。

三、「曜日」に対する認知

（一）週の始まりから見た場合

2004 年に発行された日付と時刻の表記に関する国際規格の最新版 ISO 8601 では、月曜日が週の始まりとされ、月曜日～日曜日を 1～7 で表す。手帳でも月曜日が一週間の最初の日にされているのが多い（図 7 参照）。筆者の勤務校の行事暦も月曜日から始まっている（図 8 参照）。



図 7 手帳の曜日順の例

年月	週次	一	二	三	四	五	六	日
三月	二		1	2	3	4	5	**6**
	三	7	8	9	10	11	12	**13**
	四	14	15	16	17	18	19	**20**
	五	21	22	23	24	25	26	**27**
	六	28	29	30	31			

図 8 大学行事暦の曜日順の例



図 9 日本のカレンダーの曜日順の例





図 10 台湾のカレンダーの曜日順の例

台湾中国語では日曜日のことを普通、「星期日」といい、月曜日～土曜日のことを「星期一～星期六」という。冗談を言うときは「星

期日」のことを「星期七」という。それに対して日本でも台湾でもカレンダーでは月曜日ではなく、日曜日から始まっている（図 9、10 参照）。一体、一週間の最初の日は月曜日なのか、それとも日曜日なのか、現在の資料では判断できない状態である[9]。ちなみに、「週末」について辞書で見た限りでは、中国語と日本語とで定義が違っているようである。中国語の「週末」は『國語日報辭典』『重編國語辭典』の解説を見てわかるように普通は土曜日を指すのである。

（9）星期六是一週的最後一天，所以叫「週末」。(『國語日報辭典』)

（10）週末　星期六下午至星期天下午，歐美俗為休息娛樂的時間，我國習指星期六為週末（『重編國語辭典』）

（11）一星期的最後一天，通常指星期六。(『重編國語辭典修訂本』)

一方、日本語では次のように土日だけではなく、その前の金曜日を含めている説もある。

（12）1 週間の末。土曜日、また土曜日から日曜日へかけていう。近年は金曜日を含めてもいう。(『広辞苑』第六版)

（13）1 週間の終わりころ。金・土曜から日曜日にかけてのころ。（goo 辞書）

柴田（2002）で指摘されたように、「週末　土曜日から日曜日」「日曜日　週の第一日」という辞書における「週末」と「日曜日」の記述に矛盾がある。

（二）祝日の制定から見た場合

日本内閣府によると、2011 年、日本の国民の祝日は昭和 23 年法律第 178 号の「国民の祝日に関する法律」によって次のようになっている。

表 1　2011 年日本の国民の祝日

祝日	日にち	意　　味
元日	1 月 1 日	年のはじめを祝う。
成人の日	1 月の 第 2 月曜日	おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます。
建国記念の日	政令で	建国をしのび、国を愛する心を養う。

[9] 柴田（2002）にも同じような指摘が見られる。

	定める日	
春分の日	春分日	自然をたたえ、生物をいつくしむ。
昭和の日	4月29日	激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす。
憲法記念日	5月3日	日本国憲法の施行を記念し、国の成長を期する。
みどりの日	5月4日	自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ。
こどもの日	5月5日	こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する。
海の日	7月の第3月曜日	海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う。
敬老の日	9月の第3月曜日	多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う。
秋分の日	秋分日	祖先をうやまい、なくなった人々を偲ぶ。
体育の日	10月の第2月曜日	スポーツにしたしみ、健康な心身をつちかう。
文化の日	11月3日	自由と平和を愛し、文化をすすめる。
勤労感謝の日	11月23日	勤労をたっとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう。
天皇誕生日	12月23日	天皇の誕生日を祝う。

（日本内閣府ホームページによる）

上の表で見たように、日本では決まった日にちの祝日もあれば、「月曜日」限定の祝日（成人の日、海の日、敬老の日、体育の日）もある。連休にする意図は分かるが、なぜ月曜日なのか、興味深いことである。2004年9月14日BPnetの記事によると、行動科学研究所の山村昌隆は曜日によって人間の肉体、知性、感情、気力に好調、不調のリズムがあると述べている（図11参照）[10]。「成人の日」「海の日」「敬老の日」「体育の日」を決まった日にちではなく、月曜日にしたのは「土・日曜日に家庭奉仕や遊びすぎで休養できなかったサラリーマンが、月曜日に勤めに出ても疲労している」（goo辞書『デジタル大辞泉』小学館による）という「月曜病（ブルーマンデー症候群）」がその原因ではないかと考えられる[11]。

[10] http://www.nikkeibp.co.jp/archives/331/331374.html による。

[11] 1999年10月14日、日本参議院本会議において、「国民の祝日に関する法律」の一部改正案が可決成立した。法律の改正によって、2000年から「成人の日」は1月の第2月曜日に、「体育の日」は10月の第2月曜日に、2003年から「海の日」は7月の第3月曜日に、「敬老の日」は9月の第3月曜日にそれぞれ移動するようになった。祝日が月曜に移動することによって、連休が実現し、これによって、ゆとりある生活時間が生まれ、地域活動やボランティア活動、

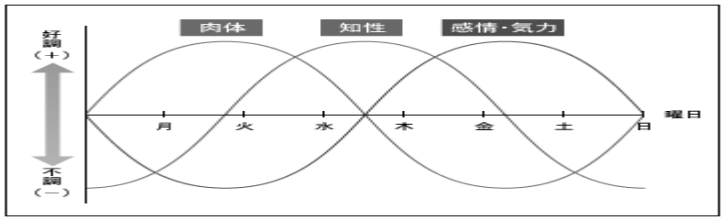


図 11　曜日による人間の肉体、知性、感情、気力の好調･不調[12]

一方、台湾では「公務人員週休二日實施辦法」第三條によって次の表 2 のような祝日が定められている。記念日は新暦によるが、民俗祝日はお墓参りの日を除いて、すべて旧暦による。

表 2　台湾の祝日

一、記念日
（一）中華民國創立記念日（1 月 1 日）
（二）和平紀念日（2 月 28 日）
（三）国慶節（10 月 10 日）。
二、民俗祝日
（一）春節（農暦 1 月 1 日至 1 月 3 日）
（二）民族墓参りの日（清明日）
（三）端午節（農暦 5 月 5 日）
（四）中秋節（農暦 8 月 15 日）
（五）旧暦大晦日（農暦 12 月の末日）

上述したように、「日にち」重視の台湾の祝日観と、「日にち」とも「曜日」とも重視する日本の祝日観との間にはっきりした相違があることが浮き彫りになっている。

（三）週間関係名詞から見た場合

1、曜日の呼び方

中国語では日曜日の「星期日」「禮拜日」「星期天」「禮拜天」「禮拜」を除いて、一、二、三、四、五、六のように数詞が用いられる。それに対して日本語では日曜日、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、

余暇活動、趣味等に活用することができるようになると期待された。

[12] http://www.nikkeibp.co.jp/archives/331/331374.html による。

金曜日、土曜日のように七曜の名前が用いられる。そして「星期日」「禮拜日」「星期天」「禮拜天」は「神仏を拝む日」のイメージが強くて星座の意を表すのではない。このように曜日の呼び名において、中国語の順番重視、機能重視に対して、日本語は星座重視である。

2、週間関係の言い方

「先週」「今週」「来週」という日本語と「上週」「本週」「下週」という中国語と、それぞれの時間意識の捉え方において次のような異同がある。中国語の「上週」「本週」「下週」は上下関係による捉え方であるのに対して、日本語の「先週」「今週」「来週」は前後関係による捉え方である。認知言語学的観点から見れば、不可視的な時間を可視的な空間表現で捉えるのは人間の認知能力の一つであるが、いわゆる空間的表現にはいろいろなものがある。例えば、時間は川の水と同じように一方向に不可逆的に流れるのでよく川の流れに喩えられる。中国語の「上週」「下週」はつまり川の「上流」「下流」と似たような表現である。一方、過ぎ去った時間のことを自分の向かう前のほうを表す「先～」で、これから迎える時間のことを自分に後に近づいてくることを表す「来～」で捉えるのは自分が今いる場所を基準にする空間感覚で次から次へと移動する時間の軌道を捉えた比喩である。同じ時間の推移なのに、中国語と日本語とで時間意識の捉え方が違うのは面白いことである。

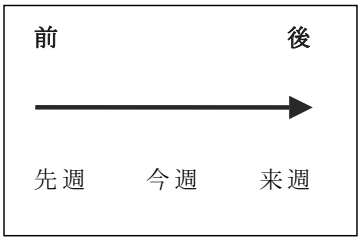


図 12　日本語の週間関係

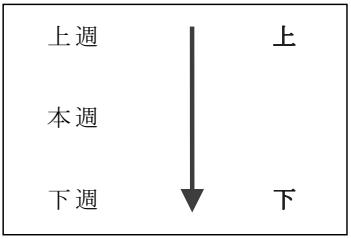


図 13　中国語の週間関係

（四）コーパスから見た場合

本節では実際の言語使用における「曜日」「星期」について考察する。まず、インタネットにおける「曜日」の使用状況を見てみよう。「～的星期～」というキーワードで Google の中国語ページを検索す

ると、次の表 3 のように、出現件数では土曜日の「星期六」の用例が一番多く、日曜日の「星期日」の用例が一番少ない。それに対して、「い～曜日」というキーワードで Google の日本語ページを検索すると、次の表 3 のように出現件数では日曜日の用例が一番多く、木曜日の用例が一番少ない（検索時間：2011 年 2 月 14－20 日）。中国語と日本語でだいぶ違った使用状況が観察された。中国語のインタネットで土曜日の「星期六」の用例が多いことは月刊誌『光華』（検索範囲 1996 年 1 月－2011 年 1 月分）の使用状況と一致しているが、日本語のインタネットで土曜日、日曜日の用例が多いことは『新潮文庫の 100 冊』の使用状況と一致している。

表 3　インターネットにおける「星期」「曜日」の使用状況

中国語			日本語		
星期	出現総件数	順位	曜日	出現総件数	順位
星期一	約 5,840,000	3	月曜日	約 7,690,000	4
星期二	約 4,660,000	4	火曜日	約 5,520,000	6
星期三	約 4,660,000	4	水曜日	約 5,840,000	5
星期四	約 4,590,000	6	木曜日	約 4,670,000	7
星期五	約 6,430,000	2	金曜日	約 8,100,000	3
星期六	約 6,450,000	1	土曜日	約 12,900,000	2
星期日	約 4,460,000	7	日曜日	約 14,700,000	1
合計	約 37,090,000		合計	約 59,420,000	

表 4　コーパスにおける「星期」「曜日」の使用状況

中国語（光華）				日本語（新潮文庫の 100 冊）			
星期	件数	%	順位	曜日	件数	%	順位
星期一	24	18.46%	2	月曜日	85	12.11%	3
星期二	7	5.38%	7	火曜日	33	4.70%	6
星期三	14	10.77%	5	水曜日	28	3.99%	7
星期四	9	6.92%	6	木曜日	38	5.41%	5
星期五	17	13.08%	4	金曜日	65	9.26%	4
星期六	39	30.00%	1	土曜日	136	19.37%	2
星期日	20	15.38%	3	日曜日	317	45.16%	1
合計	130			合計	702		

意味研究において語の評価性は周辺的なものとして捉えられてきたように思われるが、しかし、実際の言語使用では表現主体の好き嫌いが表されるのが常である。例えば、中国語の「不幸的」「可怕的」、日本語の「きつい」「だるい」はマイナスイメージの語であるのに対して、中国語の「美麗的」「快樂的」、日本語の「嬉しい」「いい」はプラスイメージの語である。そして、「不可思議的」「充滿意外的」「忙しい」「休みたい」などは中立の語である。このような共起形容詞の評価性を判断基準に考察してみると、「曜日」の使用状況は次のようである。インタネットにおける「～的星期～」の中国語ページの前 200 件における形容詞の評価性を見てみると、全体的にはマイナスイメージの語が多く、中立の語が少ない。曜日別に見ると、「星期一」と共起する形容詞 52 語はプラスイメージの語が 10 語、マイナスイメージの語が 35 語、中立の語が 7 語、「星期二」と共起する形容詞 28 語のうち、プラスイメージの語は 9 語、マイナスイメージの語は 16 語、中立の語が 3 語、「星期三」と共起する形容詞 19 語のうち、プラスイメージの語は 10 語、マイナスイメージの語は 7 語、中立の語が 2 語、「星期四」と共起する形容詞 30 語のうち、プラスイメージの語は 11 語、マイナスイメージの語は 11 語、中立の語は 8 語、「星期五」と共起する形容詞 34 語のうち、プラスイメージの語は 13 語、マイナスイメージの語は 15 語、中立の語が 6 語、「星期六」と共起する形容詞 36 語のうち、プラスイメージの語は 15 語、マイナスイメージの語は 12 語、中立の語が 9 語、「星期日」と共起する形容詞 37 語のうち、プラスイメージの語は 13 語、マイナスイメージの語 18 語、中立の語は 6 語ある。なお、「星期」と共起する形容詞のうち、感情という心理感覚を表す語が割合に多い。

表 5 コーパスにおける曜日別に見た「形容詞＋星期～」の使用状況

星期	共起形容詞
星期一	不下雨的、不幸的、不想上班的、不想出門的、令人沮喪的、令人焦慮的、充滿感觸的、可怕的、好倒楣的、好累的、好鬱卒的、忙碌的、有點怪的、血色、灰色的、灰暗的、冷冷的、低氣壓的、快樂的、沒勁的、放假的、哀怨的、很氣的、美好的、美麗的、要命的、疲累的、討厭的、偷閒的、涼涼的、疏忽的、甜蜜蜜、最後的、期待的、無力的、無聊的、痛苦的、超興奮的、陽光下的、陽光明媚的、黑色、愛睏的、感傷的、愚蠢的、溫馨的、煩人的、煩惱的、酸酸的、憂鬱的、潮濕的、濕冷的、爛透了的（52）
星期二	心不捨的、可怕的、可恨的、好平常的、忙碌的、忙翻的、沒甚麼感覺的、奇妙的、奔波的、肥美的、美好的、美麗的、值得紀念的、恐怖的、累到不行的、愉快的、最害怕的、發瘋的、等待的、虛脫的、超級、黑色、傷心的、該死的、厭惡的、輕鬆的、頭暈的、豐富的（28）
星期三	天氣很好的、充實的、半天課的、可愛的、休閒的、忙碌的、快樂的、幸福的、很累的、美好的、粉累的、討厭的、寂寞的、愉快的、無言的、超級、綠意盎然的、撐死的（19）
星期四	下雨的、不用開會的、天色很藍的、充滿意外的、可惡的、平安的、忙碌的、完美的、沒課的、幸福的、雨天的、悠閒的、累人的、被阻咒的、被罵的、最喜歡的、絕望的、超級、超高興的、超累的、開心的、黑色、黑暗的、新的、該死的、滿堂的、瘋狂的、輕鬆愉快的、融雪的、難得休息的（30）
星期五	下雨的、不可思議的、不尋常的、不順遂的、不想上班的、不錯的、天色很藍的、平凡的、多采多姿的、忙碌的、快樂的、沒下雨的、幸福的、美好的、美麗的、倒楣的、恐怖的、迷幻的、討厭的、悠閒的、悲慘的、期待已久的、無聊的、黑色的、傷心的、裝死的、詩的、寧靜的、漫長美好的、睡不著的、憤怒的、懶惰的、難忘的、歡樂的、下雨的、不一樣的、不得閒的、不開心的、充實忙碌的、充實的、可憐兮兮的、平淡的、永遠的、白吃的、忙碌的、快樂的、沉重的、沉默的、辛苦的、幸福、美好的、美麗的、悠閒的、悶熱的、愉悅的、最喜愛的、無聊的、舒適愉快的、超級繁忙的、開心的、陽光晶瑩的、亂七八糟的、滿月的、滿載而歸的、瘋狂的、精進的、潮濕的、頹廢的、難得的、歡樂的（34）
星期六	下雨的、不一樣的、不得閒的、不開心的、充實忙碌的、充實的、可憐兮兮的、平淡的、永遠的、白吃的、忙碌的、快樂的、沉重的、沉默的、辛苦的、幸福、美好的、美麗的、悠閒的、悶熱的、愉悅的、最喜愛的、無聊的、舒適愉快的、超級繁忙的、開心的、陽光晶瑩的、亂七八糟的、滿月的、滿載而歸的、瘋狂的、精進的、潮濕的、頹廢的、難得的、歡樂的（36）
星期日	下雨的、不一樣的、不舒服的、天氣晴朗的、好冷的、好熱的、有雨有太陽的、忙碌的、冷颼颼的、快樂的、沉睡的、奇怪的、怪異的、明亮的、炎熱的、炎熱晴朗的、充實的、美好的、美麗的、特別的、疲累的、悠閒的、寒冷的、最長的、期待的、最累的、最嗨的、最愛的、無聊的、寧靜、慵懶的、憂鬱的、頹廢的、濕冷的、懶洋洋的、難受的、艷陽高照的（37）

表 6　コーパスにおける共起形容詞の評価性に見られる「形容詞＋星期～」の使用状況

評価	意味分類		共起形容詞	星期						
	基本義	派生義								
＋	心理感覚	心理感覚	可愛的			三				
＋	心理感覚	心理感覚	快樂的	一		三		五	六	日
＋	心理感覚	心理感覚	最嗨的							日

＋	心理感覚	心理感覚	奇妙的		二					
＋	心理感覚	心理感覚	幸福						六	
＋	心理感覚	心理感覚	幸福的			三	四	五		
＋	心理感覚	心理感覚	悠閒的				四	五	六	日
＋	心理感覚	心理感覚	愉快的		二	三				
＋	心理感覚	心理感覚	愉悅的						六	
＋	心理感覚	心理感覚	期待已久的					五		
＋	心理感覚	心理感覚	期待的	一						
＋	心理感覚	心理感覚	期待的							日
＋	心理感覚	心理感覚	最喜愛的						六	
＋	心理感覚	心理感覚	最喜歡的				四			
＋	心理感覚	心理感覚	最愛的							日
＋	心理感覚	心理感覚	舒適愉快的						六	
＋	心理感覚	心理感覚	超高興的				四			
＋	心理感覚	心理感覚	超興奮的	一						
＋	心理感覚	心理感覚	開心的				四		六	
＋	心理感覚	心理感覚	輕鬆愉快的				四			
＋	心理感覚	心理感覚	輕鬆的		二					
＋	心理感覚	心理感覚	歡樂的					五	六	
＋	生活	心理感覚	充實的			三			六	日
＋	生活	心理感覚	偷閒的	一						
＋	生活	心理感覚	滿載而歸的						六	
＋	安危	心理感覚	平安的				四			
＋	好悪	心理感覚	溫馨的	一						
＋	言語活動	心理感覚	詩的					五		
＋	味覚	心理感覚	肥美的		二					
＋	味覚	心理感覚	甜蜜蜜	一						
＋	美醜	心理感覚	美好的	一	二	三		五	六	日
＋	美醜	心理感覚	美麗的	一	二			五	六	日
＋	美醜	心理感覚	漫長美好的					五		
＋	特徴	心理感覚	特別的							日
＋	記憶	心理感覚	值得紀念的		二					
＋	異同	心理感覚	多采多姿的					五		
＋	程度	心理感覚	完美的				四			
＋	程度	心理感覚	超級		二	三	四			
＋	程度	心理感覚	精進的						六	
＋	程度	心理感覚	豐富的		二					
＋	視覚	心理感覚	明亮的							日
＋	意志	心理感覚	難得休息的				四			
＋	意志	心理感覚	難得的						六	
＋	遊楽	心理感覚	休閒的			三				
＋	様相	心理感覚	不錯的					五		
＋	音	生理感覚	寧靜							日
＋	音	生理感覚	寧靜的					五		
＋	視覚	視覚	綠意盎然的			三				
＋	気象	気象	天色很藍的				四	五		
＋	気象	気象	天氣很好的			三				
＋	気象	気象	天氣晴朗的							日
＋	気象	気象	陽光下的	一						
＋	気象	気象	陽光明媚的	一						
＋	気象	気象	陽光晶瑩的						六	
＋	気象	気象	艷陽高照的							日
—	不運	心理感覚	倒楣的					五		
—	心理感覚	心理感覚	不舒服的							日

—	心理感覚	心理感覚	不開心的						六	
—	心理感覚	心理感覚	不想上班的	一				五		
—	心理感覚	心理感覚	不想出門的	一						
—	心理感覚	心理感覚	心不捨的		二					
—	心理感覚	心理感覚	令人沮喪的	一						
—	心理感覚	心理感覚	令人焦慮的	一						
—	心理感覚	心理感覚	充滿感觸的	一						
—	心理感覚	心理感覚	可怕的	一	二					
—	心理感覚	心理感覚	可恨的		二					
—	心理感覚	心理感覚	可惡的				四			
—	心理感覚	心理感覚	可憐兮兮的						六	
—	心理感覚	心理感覚	好倒楣的	一						
—	心理感覚	心理感覚	好鬱卒的	一						
—	心理感覚	心理感覚	哀怨的	一						
—	心理感覚	心理感覚	很氣的	一						
—	心理感覚	心理感覚	沉重的						六	
—	心理感覚	心理感覚	痛苦的	一						
—	心理感覚	心理感覚	討厭的	一		三		五		
—	好悪	心理感覚	厭惡的		二					
—	好悪	心理感覚	愚蠢的	一						
—	心理感覚	心理感覚	辛苦的						六	
—	心理感覚	心理感覚	寂寞的			三				
—	心理感覚	心理感覚	悲慘的					五		
—	心理感覚	心理感覚	最害怕的		二					
—	心理感覚	心理感覚	絕望的				四			
—	心理感覚	心理感覚	虛脫的		二					
—	心理感覚	心理感覚	傷心的		二			五		
—	心理感覚	心理感覚	感傷的	一						
—	心理感覚	心理感覚	憤怒的					五		
—	心理感覚	心理感覚	憂鬱的	一						日
—	心理感覚	心理感覚	難受的							日
—	苦悩	心理感覚	煩人的	一						
—	苦悩	心理感覚	煩惱的	一						
—	心理感覚	心理感覚	無聊的	一				五	六	六
—	心理感覚	心理感覚	有點怪的	一						
—	心理感覚	心理感覚	奇怪的							日
—	心理感覚	心理感覚	怪異的							日
—	心理感覚	心理感覚	迷幻的					五		
—	心理感覚	心理感覚	發瘋的		二					
—	支障	心理感覚	頹廢的						六	日
—	生活	心理感覚	奔波的		二					
—	生活	心理感覚	不得閒的						六	
—	生活	心理感覚	忙碌的	一	二	三	四	五	六	日
—	生活	心理感覚	忙翻的		二					
—	生活	心理感覚	超級繁忙的						六	
—	生理感覚	心理感覚	撐死的			三				
—	言語活動	心理感覚	被阻咒的				四			
—	言語活動	心理感覚	被罵的				四			
—	味覚	心理感覚	酸酸的	一						
—	注意力	心理感覚	疏忽的	一						
—	苦悩	心理感覚	裝死的					五		
—	恐怖	心理感覚	恐怖的		二			五		
—	挨拶語	心理感覚	該死的		二		四			
—	混乱	心理感覚	瘋狂的				四		六	

—	程度	心理感覚	最長的							日
—	程度	心理感覚	爛透了的	一						
—	視覚	心理感覚	灰色的	一						
—	視覚	心理感覚	灰暗的	一						
—	視覚	心理感覚	黒色	一	二		四			
—	視覚	心理感覚	黒色的					五		
—	視覚	心理感覚	黒暗的				四			
—	禍福	心理感覚	不幸的	一						
—	障害	心理感覚	要命的	一						
—	様子	心理感覚	亂七八糟的						六	
—	疲労	心理感覚	沒勁的	一						
—	疲労	心理感覚	累人的				四			
—	疲労	心理感覚	累到不行的		二					
—	疲労	心理感覚	最累的							日
—	疲労	心理感覚	超累的				四			
—	疲労	生理感覚	好累的	一						
—	疲労	生理感覚	很累的			三				
—	疲労	生理感覚	疲累的	一						日
—	疲労	生理感覚	粉累的			三				
—	疲労	心理感覚	無力的	一						
—	疲労	生理感覚	頭暈的		二					
—	疲労	生理感覚	愛睏的	一						
—	疲労	生理感覚	懶洋洋的							日
—	疲労	生理感覚	慵懶的							日
—	気象	心理感覚	低氣壓的	一						
—	寒暖	生理感覚	好冷的							日
—	寒暖	生理感覚	冷冷的	一						
—	寒暖	生理感覚	冷颼颼的							日
—	寒暖	生理感覚	寒冷的							日
—	寒暖	生理感覚	炎熱的							日
—	寒暖	生理感覚	悶熱的						六	
—	気象	生理感覚	好熱的							日
—	精神	生理感覚	睡不著的					五		
—	努力	努力	懶惰的					五		
—	調子	事実	不順遂的					五		
△	心理感覚	心理感覚	不可思議的					五		
△	心理感覚	心理感覚	充滿意外的				四			
△	心理感覚	心理感覚	等待的		二					
△	心理感覚	心理感覚	難忘的					五		
△	生活	心理感覚	充實忙碌的						六	
△	言語活動	心理感覚	無言的			三				
△	時間	心理感覚	永遠的						六	
△	特徴	心理感覚	不尋常的					五		
△	心理感覚	心理感覚	沒甚麼感覺的		二					
△	特徴	心理感覚	平凡的					五		
△	特徴	心理感覚	平淡的						六	
△	特徴	心理感覚	好平常的		二					
△	順番	心理感覚	最後的	一						
△	睡眠	心理感覚	沉睡的							日
△	言語活動	生理感覚	沉默的						六	
△	生理感覚	生理感覚	炎熱晴朗的							日
△	寒暖	生理感覚	涼涼的	一						
△	視覚	視覚	血色	一						
△	気象	気象	下雨的				四	五	六	日

△	気象	気象	不下雨的	一						
△	気象	気象	有雨有太陽的							日
△	気象	気象	沒下雨的					五		
△	気象	気象	雨天的				四			
△	気象	気象	潮濕的	一					六	
△	気象	気象	融雪的				四			
△	気象	気象	濕冷的	一						日
△	自然	自然	満月的						六	
△	料金	料金	白吃的						六	
△	新旧	新旧	新的				四			
△	異同	様相	不一様的						六	日
△	事実	事実	半天課的			三				
△	学習	学習	満堂的				四			
△	生活	事実	沒課的				四			
△	仕事	事実	不用開會的				四			
△	生活	事実	放假的	一						

（「＋」はプラスイメージ、「—」はマイナスイメージ、「△」は中立の語を表す。）

表 7　評価性に見られる「星期」の共起形容詞

星期		共起形容詞の評価性			合計
		プラスイメージ	マイナスイメージ	中立のイメージ	
星期一		10	35	7	52
星期二		9	16	3	28
星期三		10	7	2	19
星期四		11	11	8	30
星期五		13	15	6	34
星期六		15	12	9	36
星期日		13	18	6	37
合計	延べ語数	81	114	41	236
	異なり語数	55	91	35	181

Google でインタネットにおける「形容詞＋～曜日」を検索すると、次の表のような結果を得た（検索時間：2011 年 2 月 14－20 日）。出現件数では日曜日が一番多く、木曜日は一番少なかった。それぞれの前 200 件における形容詞を見てみると、「日曜日」「月曜日」と共起する形容詞が多い。評価性から見ればマイナスイメージの語が多く、中立の語は少ない。曜日別で見ると、月曜日と共起する形容詞 15 語はすべてマイナスイメージの語、火曜日と共起する形容詞 11 語のうち、プラスイメージの語は 3 語、マイナスイメージの語は 8 語、水曜日と共起する形容詞 13 語のうち、プラスイメージの語は 1 語、マイナスイメージの語は 12 語、木曜日と共起する形容詞 13 語のうち、プラスイメージの語は 2 語、マイナスイメージの語は 9 語、

中立の語は 2 語、金曜日と共起する形容詞 13 語のうち、プラスイメージの語は 3 語、マイナスイメージの語は 10 語、土曜日と共起する形容詞 13 語のうち、プラスイメージの語は 4 語、マイナスイメージの語は 9 語、日曜日と共起する形容詞 17 語のうち、プラスイメージの語は 3 語、マイナスイメージの語は 13 語、中立の語は 1 語ある。

ちなみに、日本厚生労働省『平成 16 年度自殺死亡統計の概況』によれば、平成 15 年の 1 日平均自殺死亡数を死亡曜日別に見ると、「月曜日」は男 80.7 人、女 27.3 人と最も多くなっており、「土曜日」は男 53.5 人、女 21.2 人と少なくなっているが、曜日との共起形容詞のイメージはこの調査結果と一致している。つまり、インタネットによる調査結果では各曜日と共起する形容詞は全体的にはマイナスイメージの語がプラスイメージの語より多い。月曜日と共起形容詞だけがすべてマイナスイメージの語であり、逆に土曜日と共起する形容詞におけるプラスイメージの語が一番多くなっている。考えてみれば、このような言語事実は月曜日休日が増加した「国民の祝日に関する法律」の一部改正案の可決成立に関連しているのではないかと思われる。

表 8　インタネットにおける曜日別に見た「形容詞＋～曜日」の使用状況

曜日	出現総件数	前 200 件における「形容詞」
月曜日	約 7,690,000	暑い、エロい、（気持ちが）重い、かったるい、（精神的に）きつい、昏い、気だるい、けぶい、寒い、凄い、ダルイ、長い、ねぶたい、眠い、蒸し暑い（15）
火曜日	約 5,520,000	あったかい、暑い、危ない、甘い、（みんなに会えて）嬉しい、きつい、気怠い、寒い、凄い、長い、緩い（11）
水曜日	約 5,840,000	暑い、 甘い、きつい、気怠い、寒い、凄い、だるい、長い、憎い、眠い、腹痛い、ヤバい、緩い（13）
木曜日	約 4,670,000	暑い、甘い、甘酸っぱい、重たい、気持い、濃い、さぶい、寒い、しんどい、つらい、長い、眠い、休みたい（13）
金曜日	約 8,100,000	暑い、甘い、 重たい、濃い、濃ゆい、さぶい、超さみしい、寒い、だるい、冷たい、長い、名残り惜しい、ヤバい（13）

土曜日	約 12,900,000	暑い、危い、甘い[13]、いい、気持ちがよい、気怠い、さぶい、寒い、天気が良い、長い、蒸し暑い、怠い、緩い（13）
日曜日	約 14,700,000	頭痛い、暑い、甘い、慌しい、忙しい、体重い、昏い、気怠い、濃い、さびしい、寒い、凄い、だるい、長い、眠い、丸い、緩い（17）

表 9　インタネットにおける共起形容詞の評価性に見られる「形容詞＋～曜日」の使用状況

評価	意味分類		共起形容詞	曜日						
	基本義	派生義								
＋	寒暖	生理感覚	あったかい		火					
＋	味	心理感覚	甘い		火	水	木	金	土	日
＋	様相	心理感覚	いい						土	
＋	心理感覚	心理感覚	嬉しい		火					
＋	心理感覚	心理感覚	気持ちがよい						土	
＋	多少	心理感覚	濃い				木	金		日
＋	多少	心理感覚	濃ゆい					金		
＋	気象	気象	天気がよい						土	
＋	形	心理感覚	丸い							日
ー	生理感覚	心理感覚	頭痛い							日
ー	寒暖	生理感覚	暑い	月	火	水	木	金	土	日
ー	様相	心理感覚	危ない		火				土	
ー	速度	心理感覚	慌ただしい							日
ー	風俗	心理感覚	エロい	月						
ー	生理感覚	心理感覚	重たい				木	金		
ー	生理感覚	生理感覚	かったるい	月						
ー	生理感覚	生理感覚	体重い							日
ー	様相	心理感覚	きつい	月	火	水				
ー	心理感覚	心理感覚	気持い				木			
ー	心理感覚	心理感覚	気持ちが重い	月						
ー	生理感覚	心理感覚	昏い	月						日
ー	生理感覚	生理感覚	気怠い		火	水			土	日
ー	視覚	生理感覚	けぶい	月						
ー	様相	心理感覚	寂しい							日
ー	寒暖	生理感覚	さぶい				木	金	土	
ー	寒暖	生理感覚	寒い	月	火	水	木	金	土	日
ー	心理感覚	心理感覚	しんどい				木			

[13] 「甘い」は「甘い考え方」のようにマイナスイメージになることも考えられるが、ここでは「甘～い土曜日：今日は朝からケーキやご馳走の準備」「甘～い日曜日：今日バレンタインデー」「甘いものを食べたい」のような例なので、プラスイメージの用例に分類した。

ー	心理感覚	心理感覚	凄い	月	火	水				日
ー	生理感覚	生理感覚	だるい	月		水		金	土	日
ー	様相	心理感覚	超さみしい					金		
ー	寒暖	生理感覚	冷たい					金		
ー	心理感覚	心理感覚	辛い				木			
ー	時間	心理感覚	長い	月	火	水	木	金	土	日
ー	心理感覚	心理感覚	名残惜しい					金		
ー	心理感覚	心理感覚	憎い			水				
ー	生理感覚	生理感覚	ねぶたい	月						
ー	生理感覚	生理感覚	眠い	月		水	木			日
ー	生理感覚	生理感覚	腹痛い			水				
ー	寒暖	生理感覚	蒸し暑い	月					土	
ー	様相	心理感覚	ヤバい			水		金		
ー	形	心理感覚	緩い		火	水			土	日
△	味	心理感覚	甘酸っぱい				木			
△	生活	心理感覚	忙しい							日
△	心理感覚	心理感覚	休みたい				木			

（「＋」はプラスイメージ、「—」はマイナスイメージ、「△」は中立の語を表す。）

表 10　評価性に見られる「曜日」の共起形容詞

曜日		共起形容詞の評価性			合計
		プラスイメージ	マイナスイメージ	中立のイメージ	
月曜日		0	14	0	14
火曜日		3	8	0	11
水曜日		1	12	0	13
木曜日		2	9	2	13
金曜日		3	10	0	13
土曜日		4	9	0	13
日曜日		3	13	1	17
合計	延べ語数	16	75	3	94
	異なり語数	9	32	3	44

（五）しめくくり

上の考察で分かるように、中国も日本も西洋の影響を受けて七日間を一週間とする「週制度」を導入したが、中国より日本のほうが先にそれに従って公の活動が行われた。そして、台湾では日本の影響で中国より先に「週制度」を導入した。用語については中国語では七曜に関係している「星期」と教会に関係している「禮拜」が用いられるのに対して、日本語では七曜に関係している「曜日」が用いられている。日本語になった中国語が多いが、曜日名ではそれぞ

れ違った呼び名になっている。

祝日の制定においては、台湾は「日にち」を重視し、新暦も旧暦も尊重している。日本は「日にち」も「曜日」も重視するが、明治時代以降、旧暦を廃止して新暦を採用している。なお、日本で自殺が多い曜日は月曜日であるし、コーパスにおける月曜日の共起形容詞はすべてマイナスイメージの語である。上述したように、このような事件と言語事実は日本の祝日で月曜日限定の日が多いことの一因になっているかもしれない。

週間関係用語から考えてみれば、日本語では「先週、今週、来週」のように前後に移動するという時間意識であるのに対して、中国語では「上週、本週、下週」のように上下に移動するという時間意識である。

四、おわりに

日本語では「花金」「月曜病」という用語がある。「花金」は「花の金曜日」のことで、週休二日制の導入によって土曜休日の企業が増え、休日前の金曜の晩は遊びまわる風潮が出来たことから生まれた言葉であるが、20 世紀末葉のバブル経済の時代が終わると、死語に近いような存在になったようである。しかし、表 11 で見るように、日本の意識調査の結果によれば、1980 年から 2010 年までの 30 年間、金曜日の帰りが外の曜日より遅いことはあまり変わっていない。

表 11　日本人の帰宅が遅い曜日（1980－2010 年）

	2010 年	2000 年	1990 年	1980 年
月曜	24.0	37.0	33.9	34.1
火曜	21.8	23.6	26.5	24.0
水曜	8.3	19.1	16.0	20.4
木曜	23.3	33.3	40.1	22.0
金曜	35.5	63.9	74.5	71.0
土曜	10.0	6.7	7.7	20.4
日曜	5.3	—	—	—
ない	26.8	—	—	—

（シチズンホールディングス（株）シチズン意識調査結果による）

「月曜病」は「ブルーマンデー症候群」とも「サザエさん症候群」とも言って、日曜日の夜、翌日からまた勉強とか仕事をしなければならないという現実を思うと憂鬱になり、倦怠感や体調不良を訴える症状の俗称であるが、21 世紀初頭の現代でも生きている言葉である。中国語では「花金」に当たる言葉はないが、「月曜病」に当たる語は「週一症候群」という。但し、日本語における「月曜病」のことは月曜日の共起形容詞がすべてマイナスイメージであることからも伺われるが、中国語における「週一症候群」は「星期」の共起形容詞の評価性からすぐには分からないように思われる。なお、13 日の金曜日はイエスキリストの受難日という西洋の影響により、中国語では「黒色星期五」、日本語では「黒い金曜日」と言われることもあるが、両方とも危険、不吉というイメージである。

言語は意思疎通の道具で、その使用社会の文化でもある。それ故に、言語の教育と学習はただ言葉を教えたり学んだりするのではなく、言葉の言語形式およびその背後に潜められている言語文化、社会通念というようなことも理解しておかなければならない。外国語学習や教育支援において、目標言語の音声、文字、語彙、文法という言語素材の側面を一方的に吸収しても、真の外国語人材にはなりかねる。21 世紀における外国語教育の最終的な目標は学習者の異文化交流能力育成にあると思われる。外国語の音声·文字·語彙·文法·表現形式を習い、母語、母文化との対照比較の結果を生かして、聴解力、読解力、発話力、書写力、翻訳·通訳力、異文化理解力を鍛え、その外国語を駆使して世界的に活躍できるような交流能力を持ってこそ、異文化交流の架け橋になることができる。台湾日本語教育的視点から考えてみれば、目標言語の日本語と学習者母語の中国語との、言語事実の背後にある言語文化の対照比較をもっと重視すべきである。

参考文献

阿川修三（2002）「中国近代における時間意識形成についての一考察」『文教大学文学部紀要』第16-1巻、立教大学文学部

石川啄木（1907）「ローマ字日記」1991『石川啄木大全』講談社

葛元煦（1867）『滬遊雜記』1989『上海灘與上海人』上海古籍出版社再録

何容（1974）『國語日報辭典』1987 第 36 版國語日報社

魏収（555）『魏書』中央研究院漢籍電子文獻
http://hanji.sinica.edu.tw/ による

魏徵（629）『隋書』中央研究院漢籍電子文獻
http://hanji.sinica.edu.tw/ による

北原保雄（2002）『国語大辞典』第十三巻、小学館

教育部（1981）『重編國語辭典』台灣商務印書館

教育部（1994）『重編國語辭典修訂本』
http://dict.revised.moe.edu.tw/

呉文星（2004）「近代台湾的社會變遷」教育部第二梯次提升大學機組教育計畫大學校院通識教育巡迴講座
http://www.ncu.edu.tw/～ncu34814/edu/speech.php

呉密察監修（2000）『台灣史小事典』遠流出版社

シチズンホールディングス（株）「シチズン意識調査 2010」
http://www.citizen.co.jp/research/time/20101201/index.html

柴田武（2002）「国語辞書はどうあるべきか」『現代日本語講座第 4 巻』明治書院

蔣夢麟（1957）『西潮』http://book.qq.com/s/book/0/13/13337

台湾総督府（1912）『台灣教科用書國民讀本 十一』南天書局 2003 年景印版

台湾総督府（1916）『蕃人讀本 卷四』久留美大学 2001 年覆刻

台湾総督府（1923）『公學校用國民讀本卷三』南天書局 2003 年景印版

趙爾巽（1927）『清史稿』中央研究院漢籍電子文獻
http://hanji.sinica.edu.tw

程登吉（不詳）『幼學瓊林』巻二 中華國粹經典文庫『幼學瓊林』電子ブック http://www.77phone.com/txt_154813
日本厚生労働省（2003）『平成 16 年度自殺死亡統計の概況』 http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/suicide04/
諸橋轍治（1955）『漢和辞典』大修館
遊佐徹（2003）「清末期『日曜日』－清末期中国における『近代』の受容」『文化共生学』第 1 号、岡山大学大学院文化科学研究科
楊欽堯（2009）「淺談民俗～恭賀新年！兼談新舊曆台湾」台灣文獻館電子報第 24 期
こよみ博物館ホームページ http://koyomi.todan.co.jp
台灣光華雜誌ホームページ http://www.sinorama.com.tw
台湾中央研究院漢籍電子文獻ホームページ http://hanji.sinica.edu.tw/
中野康明の雑学ページ http://www001.upp.so-net.ne.jp/yasuaki/misc/lang/lang05.htm
日本国立公文書館ホームページ http://www.bunzo.jp
日本内閣府ホームページ http://www8.cao.go.jp
日本国立公文書館ホームページ http://www.bunzo.jp
日本内閣府ホームページ http://www8.cao.go.jp/chosei/shukujitsu/gaiyou.html
松村明『デジタル大辞泉』小学館ホームページ http://kotobank.jp/dictionary/daijisen

後記：本稿は 2010 年度行政院国家科学委員会研究課題「日本語時間表現研究」（研究番号：NSC99-2410-H-031 -070 -MY2）の成果の一部である。2011 年 3 月 27 日東呉大学外国語文学院国際学術シンポジウムの参加者及び『台大日本語文研究』の査読者より有益な助言をいただいた。感謝の意を表したい。